



内閣総理大臣 安倍晋三 様
防衛大臣 久間章生 様

久間章生防衛大臣の広島・長崎への原爆投下を是認する発言に、強く抗議いたします

6月30日午前、久間章生防衛大臣が、麗澤大学の講演の中で、米国の広島・長崎への原子爆弾投下が日本の無条件降伏につながり、ソ連の北海道侵略・占領を防いだと指摘した上で「(原爆で)本当に無数の人が悲惨な目に遭ったが、あれで戦争が終わったんだという頭の整理で今しようがないなと思っている」と述べたことについて、私たち日本YWCAは強く抗議いたします。

戦後数十年たってようやく証言に立つ被爆者の方々の「あやまちを繰り返してはならない」という言葉を心に刻みつつ、日本YWCAは1971年以来若い世代と共に「ひろしまを考える旅」を行って、日本の被害と加害の歴史を学んできました。私たちが多くの被爆者の方々に学んだことは、あの日あの場所でさまざまな人々が日常生活を営んでいた時、原爆投下によって一瞬にして命が奪われたという事実であり、戦後その歴史を省みることなく、国と国の政治の力の中で、核実験が続いている現実です。62年たってもなお、原爆の後遺症や核実験による放射能障害で苦しんでいる方々がおられることを、私たちは忘れてはなりません。

原爆投下によって戦争が終わったという言葉は、これまでも国内外の政治家が言葉にしてきました。しかし、原爆で奪われた一人ひとりの命は、誰にとってもかけがえのない命であったという感性を、政治家である前に、私たち人間は失ってはなりません。今回の久間防衛大臣の「しようがないなと思っている」との発言は、すべての命への冒涇であり、政治家として歴史認識を著しく欠く発言です。また、久間防衛大臣の発言を是認する安倍政権は、まさに戦争を正当化し世界的な軍事支配をつづける米国に追従する姿勢を顕にするものです。

歴史の過ちに学び、市民の命を守るために平和をつくり出す政治を行ってほしいと願う日本YWCAは、久間防衛大臣の発言はもとより、これを是認する安倍政権に強く抗議いたします。

2007年7月2日

日本YWCA
会長 石井摩耶子
総幹事 川端国世